

令和5年5月31日

市民文教委員会

スポーツ振興課

ビーチマリンスポーツ三ヶ日地区基本構想について

1 背景

- ・平成30年に策定した「ビーチマリンスポーツ事業化計画」では、三ヶ日地区を大会誘致ゾーンとして位置付けている。
- ・令和4年度に現状調査やニーズ把握のため関係団体へヒアリング（地元競技団体、三ヶ日青年の家、観光協会、県浜松土木事務所、漁協組合など）を実施
- ・調査をもとに3つのモデルプラン案を作成

2 位置図・整備配置図



[概要]

競技エリア 競技艇や用具などを平置き保管（470級ディングーで約150艇配置可能）
出艇スロープを整備し、湖面にアクセス可能。

にぎわい広場 管理棟として、事務室・トイレ・シャワー室などを想定。また広場では、
テントや露店などの設営が可能。

駐車場 路面舗装の駐車場（86台収容）

3 モデルプラン案

モデルプラン	内容	概算整備費（※）
①案	簡易モデル（浮き栈橋なし）	574,000千円
②案	簡易モデル（浮き栈橋あり）	639,000千円
③案	恒久施設モデル	1,338,000千円

③案 + 堤防設置の検討（設置概算費用588,000千円）

静岡県セーリング連盟から堤防設置の要望あり。堤防を整備した場合、周辺の漁業に影響が出る可能性もあることから、整備の実現性や必要性を今後検討していく。

4 令和5年度事業（基礎調査業務14,850千円）

施設整備に向けて、整備予定地の測量と地質の調査を実施する

- （1）ヨット用スロープ、浮き栈橋、堤防整備に関わる湖底の測量調査
- （2）ボーリング調査（ヨット用スロープ、マリンセンター付近の2か所を想定）

三ヶ日地区基本構想策定に至る経過

1 ビーチ・マリンスポーツ事業化計画（平成30年策定）

三ヶ日地区の特性	
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・強風下でも波の影響が少なく、競技スケジュールの変更リスクが少なく、年間を通して温暖な気候、美しい景観 ・マリンスポーツに適した競技環境が整っている
立地・アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の真ん中に位置している ・東名高速道路のインターから至近の立地条件

◎日常的にセーリング、ウインドサーフィン、SUP、釣りなどのマリンスポーツが盛ん。

◎施設の整備の在り方によっては、さらに優位性が高まり、大規模な大会の開催の実現や、国内外から多くの人が集まる拠点としてのポテンシャルが高い。

2 整備候補地

「三ヶ日青年の家」の東側にある市有地を整備候補地として選定



所在地：北区三ヶ日町都築

面積：約 1.4ha

アクセス：東名高速道路三ヶ日 IC から約 3.9km

天竜浜名湖鉄道「東都築駅」から約 2.7km

【現状】

- ・隣接する三ヶ日青年の家は、ヨットハーバー設備（保管数は30艇程度）や200人宿泊できる施設、会議室等を備えており、マリンスポーツ大会の実績もある。

（三ヶ日青年の家の大会実績一覧）

大会名	競技	参加数	概要
モス級全日本選手権	セーリング	25チーム	全日本選手権
セーリングチャレンジカップ IN 浜名湖	セーリング	150人	全国中・高校生世界選手権派遣予選を兼ねた全国大会
MID CUP	ウインドサーフィン	140人	国体選手、学生トップ選手が競う全国大会
浜名湖 CUP JWA JAPAN PRO TOUR FOIL	ウインドサーフィン	35チーム 70人	国内トップ選手が競うウインドサーフィン・フォイルのツアー戦
西日本医科大学ヨット大会	セーリング	16チーム 200人	西日本医科大学最高峰大会

- ・一方で、セーリング競技の全国大会クラスになると150～160艇の容量が必要となり、三ヶ日青年の家だけでは対応しきれない。

- ◎三ヶ日青年の家が有する機能と合わせ、本施設を整備すれば、全国クラスの大会を誘致することが可能。（連携により宿泊機能を備えたマリンスポーツ施設は全国的にもあまり例がないため、合宿誘致にも期待）
- ◎「競技力の向上」と「すそ野拡大」、「スポーツ振興」と「地域振興」、浜名湖環境の「保全」と「活用」、それぞれの好循環をコンセプトとした施設を目指す。